公立大学法人横浜市立大学

「横浜から世界へ羽ばたく」人材育成と知の創生・発信

横浜市立大学は「国際都市・横浜と共に歩み、教育・研究・医療分野をリードする役割を果たすことをその使命とし、社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学」を目指します。

大学の魅力を一層高めつつ、学生・市民・社会に対して大学が有する知的・医療資源の還元に積極的に取り組み、令和 10 年に迎える創立 100 周年と次の 100 年に向けて、大学の歴史と伝統を重んじ、更なる発展を目指します。

＜令和７年度の位置付け＞

第４期中期計画（令和５～10 年度）の３年目となる令和７年度は、大学の理念である YCU ミッションのもと、本学の３つの核である「教育・研究・医療」の各分野における取組を着実に実行するとともに、令和７年１月に採択された文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に全学を挙げて取り組みます。

■ 横浜市立大学の運営

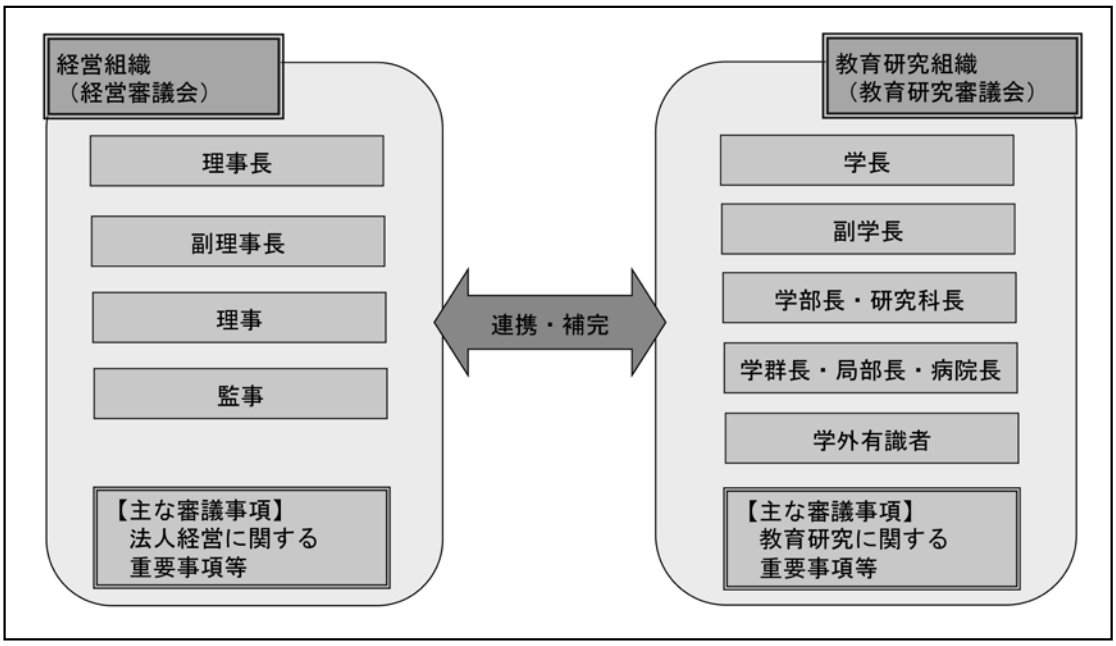
公立大学法人横浜市立大学は、経営組織と教育研究組織の役割を区分し、それぞれの権限と責任の所在の明確化を図っています。

経営審議会は、法人の経営に関する重要事項等について審議する機関であり、法人の代表者である理事長をトップとして、副理事長、理事等で構成されています。

教育研究審議会は、大学の教育研究に関する重要事項について審議する機関であり、教育研究組織の最高責任者である学長をトップとして補佐役の副学長や、学部長をはじめとした部局長等、教育研究関係者を中心に構成されています。

なお、経営審議会には副理事長となる学長をはじめ、副学長等も参加する構成となっており、教育研究組織としての自主性、自立性を確保しながら経営側と連携する体制となっています。

図１　運営体制



■ 横浜市立大学の経営

第４期中期計画は、大学が取り組む基本目標として、教育・研究・医療を中心に、地域貢献・グローバル展開を横断的項目と位置付けています。また、これらの取組を効果的に情報発信することでYCUの価値向上を図り、創立100周年に向け更なる発展を目指します。

18歳人口の減少や大学に求められる役割の変化など、大学を取り巻く環境が大きく変化する中、今後も「社会情勢の変化に柔軟に対応できるしなやかで芯のある大学」としてさらに発展していくため、令和４年度から「改革推進会議」を設置し、経営改革を進めています。

令和７年１月には、文科省の事業である「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択されました。「共創を加速する『よこはまデータサイクル』を構築し未来社会における高いヘルスウェルビーイングを実現する」という目標に向かい、大学改革を加速しながら、地域大学を牽引し、未来社会のヘルスウェルビーイング向上に貢献する大学を目指します。

図２　中期計画の概要

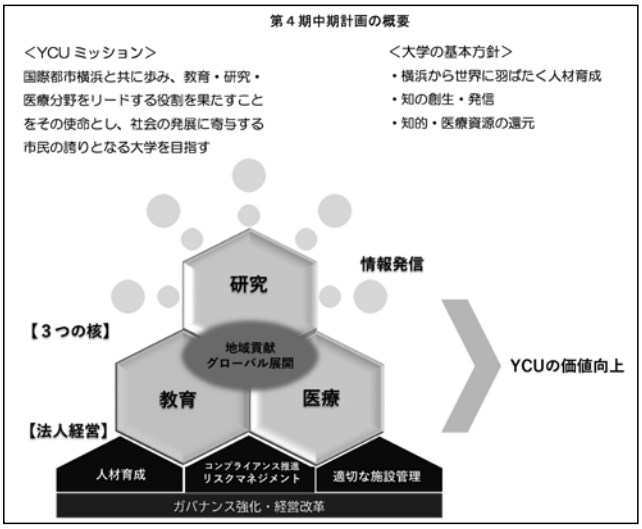
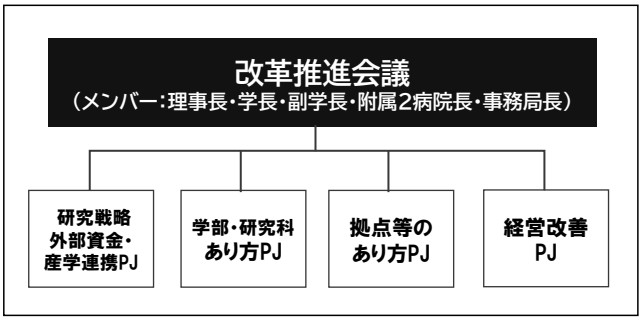


図３　横浜市立大学　経営改革の推進体制　概要図



大学案内

1　令和８年度大学案内
　アドミッションズセンターまたは金沢八景キャンパス正門守衛室にて配布

2　大学 web サイト
　アドレス　https://www.yokohama-cu.ac.jp/

金沢八景キャンパス

■ 学部

平成17年度の公立大学法人化において、国際総合科学部と医学部の２学部制でスタートしましたが、平成30年度にデータサイエンス学部を新設。さらに、平成31年度には、国際総合科学部を再編し、国際教養学部、国際商学部及び理学部を設置し５学部体制となりました。専門性を見える化し、複雑化する社会課題に対応できる人材を育成します。

国際教養学部

国際教養学部では、英語をはじめとする外国語の運用能力、文化的背景に基づいた多様性への理解、理論を実践に応用する能力、そして共感を獲得し課題を解決するためのコミュニケーション能力を身に付けます。また、確かな専門性に裏打ちされた論理的思考力を身に付ける「教養学系」と世界と日本の都市や地域の課題に実践的に取り組む「都市学系」という２つの学系での学びを通して、真のグローバル人材の育成に取り組んでいます。

国際商学部

国際商学部では、グローバル企業に必要な経営管理能力、新事業を創造する企画立案力、マネジメントの高度な実学能力を養います。ビジネスの国際的な共通言語である経営学・経済学を学び、ビジネスの現場で役立つ確かな英語力も身に付けます。海外・国内インターンシップやフィールドワーク、海外大学とのサマープログラムなどの多彩な学外実習で、学問的な理論・知識に加えて実践力を高める教育を行い、実業界や公的機関で活躍できる職業人の育成に取り組んでいます。

理学部

理学部では、物質科学や生命科学、そしてこれらの融合領域の専門知識を学修し、物質科学の概念を持ちながら、細胞・個体スケールの生命現象を捉える事ができる人材、生命現象を原子・分子スケールで起こる物理・化学現象として捉える事ができる人材、医学・工学・農学等との連携研究にも積極的に挑戦できる人材の育成に取り組んでいます。

データサイエンス学部

データサイエンス学部では、データ活用の基盤となる数理科学、統計科学、計算機科学の知識を体系的に身に付けます。さらにPBL（課題解決型学修）を通じて、医療、経済、都市など実社会における課題発見・課題解決能力を磨き、データから豊かな価値を創出できる人材の育成に取り組んでいます。

医学部

医学部では、課題解決能力を導く教養と豊かな人間性、生命と個人の尊厳を尊ぶ倫理観を備え、全人的な人間理解と人権尊重の態度を育んでいます。

医学科では、医学研究科、附属２病院と連携して医学教育を行い、医学・医療分野における課題を解決するための創造的研究を推進し、最新の医療技術を臨床現場に導入して、全人的医療を実践できる人材の育成を目指しています。教育カリキュラムを通じて、地域医療の担い手たるプライマリ・ケア医をはじめとする医師に加え、生命科学、医学、医療の分野をリードする臨床医、医学研究者、医学教育者、医療行政官など、医学・医療の分野における指導的医師・研究者を育成します。

看護学科では、幅広い教養と豊かな人間性および生命と個人の尊厳を尊ぶ高い倫理観、多様な社会に柔軟に対応する応用力を備え、看護学研究の基礎的能力および学際的な看護の専門性を有し、看護学を基盤に多様な社会で活躍するリーダーを育成します。

■ 大学院

市立大学では、学部の学びと深く結びつき、より高度な研究や専門性を追求できる大学院を設置しています。

従来の５研究科（人文社会科学系の都市社会文化研究科（都市社会文化専攻）、国際マネジメント研究科（国際マネジメント専攻）、理学系の生命ナノシステム科学研究科（物質システム科学専攻・生命環境システム科学専攻）、生命医科学研究科（生命医科学専攻）、医学系の医学研究科（医科学専攻・看護学専攻））に加え、社会が求める高度なデータサイエンティスト育成のためにデータサイエンス研究科（データサイエンス専攻・ヘルスデータサイエンス専攻）を設置し、６研究科体制となりました。

社会におけるデジタル人材、とりわけデータサイエンティストの需要の高まりを受けて、令和７年４月にデータサイエンス研究科の定員を増員しました。

大学院は、社会人の学び直しを含め各分野における次世代を担う人材育成と研究成果や知的財産の社会還元などを通じて、積極的な地域貢献を果たします。

都市社会文化研究科

都市社会文化研究科では、超高齢化・国際化等による現代社会の課題を予測・解決するために、研究科で蓄積した研究成果を活用・発展させ、人文科学の深い知見を基盤としながら、都市社会の現実的な問題等に実践的に取り組んでいける人材を育成します。

教育課程の特色として、多分野融合型の授業科目を提供し、市内の国際機関、自治体関連団体をはじめとする地域社会と緊密な連携を行っています。また、社会人を積極的に受け入れるため、持続可能な地域社会プログラムを原則平日夜間に開講しています。博士前期課程では、研究報告書によって学位を取得できる制度を導入しています。

博士前期課程の履修科目は総合研究科目、特講科目、演習科目（特別研究科目）の３種類とし、さらに特講科目は、理論や思考様式を学ぶ基礎科目と応用・実践的な分野を学ぶ展開科目から構成され、多角的に学べるカリキュラムとしています。

鶴見キャンパス

舞岡キャンパス

福浦キャンパス

みなとみらいサテライトキャンパス

博士後期課程では、多分野交流演習、攻究科目、演習科目の３種類の科目群を用意し、研究者及び高度専門職業人の養成に取り組んでいます。

国際マネジメント研究科

国際マネジメント研究科では、国際的な経済環境の変化を素早く総合的に分析し、的確な戦略を実行できる人材、また、企業の海外進出、特にアジアへの進出に重点

を置き、本格的に海外に展開する企業及びこれらの企業を支援する組織で活躍できる、国際的なマネジメントの知識、戦略及びセンスを備えた人材を育成します。

この教育目標を達成するため、博士前期課程では、履修科目群を基礎科目と応用科目で構成し、専門知識を２段階で身につける体制を整えます。また、２年間の研究指導を通じて、問題発見能力、資料収集能力、問題解決能力及びプレゼンテーション能力の向上を図ります。特色として、経営学分野では経営管理手法を用いて社会課題解決をめざす学生を対象としたソーシャル・イノベーション社会人 MBA プログラム（SIMBA）が、経済学分野では欧米の主要大学、国立大学経済学研究科で採用されているコースワーク型教育によって経済理論とデータ分析スキルの双方を備える人材を育成する YCU EconMasters プログラムによって、経営学・経済学の知識やスキルの習得を目指します。博士後期課程では、多様な分析手法に関する科目、グローバルな視点から効率的企業経営を達成するために必要な知識を扱う科目、実践的テーマや喫緊の経営課題を扱う科目及び学内外の研究者が集って最先端の議論を交わす総合演習等が用意され、多角的な分析能力を養います。

生命ナノシステム科学研究科

生命ナノシステム科学研究科では、複雑な生命システムを物質科学の立場から解明し、創薬・医療や食料・生物環境など人類社会の永続的発展のために必要な諸問題の解決策を見出すべく、これまでの物理・化学・生物の融合をさらに進め、高度な科学技術を担う人材、また産業の活性化に関わる諸問題に対して積極的に取り組む人材を育成します。

研究科の２つの専攻は、計測・情報科学に基づき、電子・原子・分子レベルからナノスケールシステム構築の解明を目指す物質システム科学専攻、ゲノム科学に基づき遺伝子・タンパク質レベルから細胞システム構築の理解を目指す生命環境システム科学専攻から構成されています。

これら２つの専攻は、研究科の共通理念のもと固有の階層的研究対象を持ちながら、お互いに補完協力する関係にあることを特長とします。

また、グローバルな研究者育成のために、連携大学院協定を結ぶ理化学研究所、海洋研究開発機構、物質・材料研究機構、ＮＴＴ物性科学基礎研究所、農業・食品産業技術総合研究機構との連携を強化するとともに、国外の研究教育機関との間に新たな世界的交流のネットワーク構築を推進し、統合科学を目指します。

生命医科学研究科

生命医科学研究科では、ポストゲノム時代に対応できる研究開発能力を持った人材を育成するために、革新的な計測技術を駆使した生物学の新分野として原子レベルや分子レベルでの生命医科学の確立を目指します。

生命原理を物質に基づき原子レベルで解明する構造生物学を基盤として、生体分子→生体超分子複合体→細胞内オルガネラ→細胞→器官→個体からなる生命の階層性を理解する教育を行うとともに、細胞極性や細胞ネットワークにおける細胞間コミュニケーション、分化や細胞初期化に関連するエピゲノム、再生医療につながる生殖細胞の独自性、あるいはさらに高次生命現象としての神経科学などを分子レベルや原子レベルで理解し、様々な疾病に対する合理的な創薬等の教育も行います。

令和３年度にはクライオ電子顕微鏡を用いる構造ダイナミクス部門を新設し、生体分子などの構造や仕組みを明らかにする教育研究の充実を図っています。

また、国内の国立研究開発法人等（理化学研究所、産業技術総合研究所、国立医薬品食品衛生研究所）との連携や国外の教育機関とのネットワークにより、グローバルな視点からも教育を行い、本研究科で得られた知識、経験を基に人類の抱える健康、環境、衛生、医療等の課題に国内外で活躍出来る人材を育成します。

データサイエンス研究科

データサイエンス研究科では、データ駆動型社会において社会課題解決を推進できるデータサイエンス人材を育成すること及び予防・医療・介護等のヘルス領域の専門知識を有する学生がヘルスサービスの質向上に向けたデータサイエンス研究に取り組むことを目的として、データサイエンス専攻・ヘルスデータサイエンス専攻の２専攻で構成されています。

令和７年４月には、データサイエンス専攻博士前期課程の入学定員を 20 人から 32 人へ、ヘルスデータサイエンス専攻博士前期課程の入学定員を 12 人から 15 人へと増員し、より多くのデータサイエンティストを社会に輩出します。

データサイエンス専攻では、博士前期課程で座学の講義と実践的データサイエンス演習を通じて、即戦力となるデータサイエンティストを養成します。また、博士後期課程ではより専門分野に特化した高度な研究活動を通じて、独創性・国際性・実践性を備えた人材を養成します。

ヘルスデータサイエンス専攻の博士前期課程では、「基礎教育」として３つの専門領域（生物統計学、研究デザイン学、ヘルス情報テクノロジー学）を学び、データサイエンスの手法を駆使したヘルスデータの利活用を通じて、学術的意義の高い研究を実施できるヘルス領域の研究リーダーを育成します。また、博士後期課程では、３つの専門領域をさらに深め、最先端の学問を学ぶ数少ないヘルスデータサイエンスプロフェッショナルとして、持続可能な未来社会を拓く研究を推進する人材を養成します。

この２つの専攻を通じて、先端技術を用いてデータを解析・活用し、社会にイノベーションをもたらすことのできる高度なスキルと実践力を持つデータサイエンティストの育成・輩出に取り組んでいます。

医学研究科

医学研究科では、医学・医療の創造的研究を行い、生命科学、医学、医療の発展に寄与するとともに、新しい時代の医学・医療を指導的に実践する研究者及び専門的職業人を養成することを目的に、修士課程（博士前期課程）及び博士課程（博士後期課程）が設置されています。

医科学専攻修士課程では、医学部以外の大学出身者を対象に医科学教育を行い、新たな医療技術や医療機器の開発に貢献できる人材を育成してきました。

医科学専攻博士課程においては、通常の修業年限を超えて計画的に履修することができる長期履修学生制度を

表1　学生数（令和７年5月1日現在）　（単位：人）

		学科・研究科＜入学定員・収容定員＞	１年	２年	３年	４年	５年	６年	計
国際教養学部		国際教養学科＜ 270・1080 ＞	308	304	294	377			1,283
国際商学部		国際商学科＜ 260・1040 ＞	271	299	297	336			1,203
理学部		理学科＜ 120・480 ＞	137	134	125	145			541
データサイエンス学部		データサイエンス学科＜ 60・240 ＞	63	70	66	79			278
国際総合科学部		国際総合学科	0	0	0	8			8
医学部		医学科＜ 93・543 ＞	97	102	94	84	87	97	561
		看護学科＜ 100・400 ＞	114	105	110	106			435
学部 計			990	1,014	986	1,135	87	97	4,309
大学院	博士前期	都市社会文化研究科 ＜ 20・40 ＞	156	171					327
		国際マネジメント研究科 ＜ 20・40 ＞							
		生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻 ＜ 30・60 ＞							
		生命ナノシステム科学研究科 生命環境システム科学専攻 ＜ 30・60 ＞							
		生命医科学研究科　生命医科学専攻 ＜ 40・80 ＞							
		データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 ＜ 32・64 ＞							
		データサイエンス研究科 ヘルスデータサイエンス専攻 ＜ 15・30 ＞							
	博士後期	都市社会文化研究科 ＜ 3・9 ＞	27	37	53				117
		国際マネジメント研究科 ＜ 3・9 ＞							
		生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻 ＜ 5・15 ＞							
		生命ナノシステム科学研究科 生命環境システム科学専攻 ＜ 5・15 ＞							
		生命医科学研究科　生命医科学専攻 ＜ 10・30 ＞							
		データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 ＜ 3・9 ＞							
		データサイエンス研究科 ヘルスデータサイエンス専攻 ＜ 3・9 ＞							
	医学研究科（修士）	医科学専攻＜ 20・40 ＞	9	18					27
		看護学専攻（博士前期）＜ 25・50 ＞	25	26					51
	医学研究科（博士）	医科学専攻＜ 80・320 ＞	93	77	74	174			418
		看護学専攻（博士後期）＜ 6・18 ＞	6	3	17				26
大学院 計			316	332	144	174			966
総合計			1,306	1,346	1,130	1,309	87	97	5,275

表2　令和７年５月１日時点　学部別教員数　（単位：人）

配属先	専任教員等												
	教授		准教授		講師		助教		助手		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合計
国際総合科学部	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
国際教養学部	12	8	15	8	0	1	0	0	0	0	27	17	44
国際商学部	12	3	10	2	1	1	0	0	0	0	23	6	29
理学部	21	1	12	3	1	0	9	0	0	0	43	4	47
理学部　兼　生命医科学研究科	9	2	8	1	0	0	4	0	0	0	21	3	24
データサイエンス学部	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0	20	0	20
データサイエンス研究科	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
医学部医学科 兼 データサイエンス研究科	1	0	3	0	0	1	0	0	0	0	4	1	5
医学部（医学科）	37	4	35	0	36	4	64	16	1	0	173	24	197
医学部（看護学科）	0	10	1	1	0	9	3	9	0	0	4	29	33
研究・産学連携推進センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
附属病院	1	0	17	1	13	4	96	45	0	0	127	50	177
附属市民総合医療センター	2	0	35	5	25	5	123	49	0	0	185	59	244
保健管理センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
先端医科学研究センター	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	2	2	4
計	112	29	146	21	76	25	300	120	1	0	635	195	830
総計	141		167		101		420		1		830		

採用しています。

さらに、連携大学院では、横浜市立の市民病院や脳卒中・神経脊椎センター、国立の医療機関・研究機関等と連携協定を締結しています。大学院生が現場に即した高度な研究環境で研究を行い、各施設の医師、研究者を医学研究科の客員教員として迎えることで、活発な人的交流、人材育成、情報交流等を図っています。

看護学専攻博士前期課程では、看護職ができるだけ離職しないで修学できるように、講義・演習科目の夜間・土曜日開講、長期履修学生制度を実施しています。先端医療に対応できる高度な専門性と実践能力の育成を目指し、実践現場を改革できる人材を育成しています。

平成30年度には、看護学専攻博士後期課程が開設され、多様化複雑化した課題を多角的に分析し、その解決に向けて新たな方法論を提示する能力、看護学研究の成果等を国際水準で、また政策提言に向けて発信する能力を持つ人材育成を目指します。

金沢八景キャンパス

所在地　金沢区瀬戸22－2
（京浜急行「金沢八景」駅下車徒歩５分、
金沢シーサイドライン「金沢八景」駅下車徒歩５分）
TEL　045-787-2311（代）、FAX　045-787-2316

福浦キャンパス

所在地　金沢区福浦３－９
（金沢シーサイドライン「市大医学部」駅下車徒歩１分）
TEL　045-787-2511　FAX　045-787-2767

鶴見キャンパス

所在地　鶴見区末広町１－７－29
（JR「鶴見」駅、京浜急行「京急鶴見」駅から
臨港バス「ふれーゆ」行バス乗車約15分「理研・市大大学院前」下車すぐ、またはJR鶴見駅よりJR鶴見線に乗換「鶴見小野」駅下車徒歩15分）
TEL　045-508-7201、FAX　045-505-3531

舞岡キャンパス

所在地　戸塚区舞岡町641－12
（市営地下鉄「舞岡」駅下車徒歩10分）
TEL　045-820-1900、FAX　045-820-1901

みなとみらいサテライトキャンパス

所在地　西区みなとみらい２－２－１
横浜ランドマークタワー７階
（JR・市営地下鉄「桜木町」駅下車動く歩道で徒歩５分
みなとみらい線「みなとみらい」駅下車徒歩３分）
TEL　045-681-7560
MAIL　mmoffice@yokohama-cu.ac.jp

■ 木原生物学研究所

所在地　戸塚区舞岡町641—12
（市営地下鉄「舞岡」駅下車徒歩10分）
TEL　045-820-1900　FAX　045-820-1901

コムギの染色体群を詳細に分析することにより、ゲノムの概念を確立したことで著名な故木原均博士の研究業績を引き継いだ施設として、木原生物学研究所が舞岡キャンパス内に設けられています。

コムギなどの遺伝資源を活用して食料の安定供給と環境保全に貢献するため、植物科学に特化した最先端の研究に取り組んでいます。あわせて、生命ナノシステム科学研究科及び理学部に所属する学生に対する教育を通して、研究者･専門技術者等の人材の育成に努めています。

また、故木原均博士の足跡を示す資料や記念品を展示した木原記念室を公開するとともに、横浜の次世代を担う人材育成に向けて、近隣の小学校、中学校、高校の理科教育への支援に取り組んでいます。

■ 学術情報センター

学術情報センター（大学図書館）では、教育・研究・

診療及び学修に必要な情報拠点として、図書や雑誌、電子ジャーナル、データベースなどの学術情報を総合的に収集し、提供しています。

各キャンパスの図書館として、人文・社会・自然科学各分野にわたる資料を備えた学術情報センター（金沢八景キャンパス）、医学・看護に関する資料を備えた医学情報センター（福浦キャンパス）、鶴見キャンパス図書室、木原生物学研究所図書室（舞岡キャンパス）、附属市民総合医療センター図書室が設置されています。

また、学術情報センターと医学情報センターでは、市民利用サービスも行っているほか、学外の方も受講できる市民講座や、横浜市金沢図書館と連携した企画展示を実施しています。

■ 先端医科学研究センター

先端医科学研究センターは、がんや生活習慣病などの疾患の早期発見・予防・治療に繋がる開発型医療を指向し、基礎医学研究の成果を実際の医療へ橋渡しする「トランスレーショナルリサーチ（※）」を推進しています。こうした取組は、国等の様々な大型プロジェクトに採択されただけでなく、メディアにも数多く掲載される等、着実に成果を上げています。

平成24年度に稼働した研究棟は、平成27年度に増築を行い、現在はゲノム、プロテオーム、セローム、疾患モデル、エピゲノム、バイオインフォマティクスの6つの解析センターを設置しています。これにより、遺伝子レベルからタンパク質、細胞レベルでの解析だけでなく、前臨床研究である疾患モデル動物による解析までを一貫して行う、高度解析技術の開発・支援体制を強化しました。また、平成30年度には、文部科学省共同利用・共同研究拠点に認定され、各種オミックスやバイオインフォマティクスの解析技術や遺伝子発現制御研究に関する知見を広く他機関に提供しているほか、デザインなどのクリエイティブ手法を用いてヘルスケア分野の課題解決を図る研究拠点、コミュニケーション・デザイン・センターを開設しました。さらに、令和5年度より新興感染症研究センターを新たに設置し、新興感染症に係る研究活動の一層の推進や発展に取り組んでいます。

※ 基礎研究の成果を臨床の場に応用すること。

■ 学術院

学術院とは、学長をトップとする全教員が所属する組織であり、人事（教員評価・リソースマネジメント）、将来構想（組織改編）、融合教育・研究を推進するため設置されています。市立大学の教員は、学術院（国際総合科学群又は医学群）に属しており、学部・研究科の枠にとらわれない専門分野間の壁を越えた教育研究等の推進が可能となっています。

サバティカル（特別研究期間）制度や教員採用・昇任・教員評価、横浜市・国の審議会等の就任状況、海外出張・兼職の状況に関する事項等、教員の人的資源についても学術院が調整・管理を行っています。

また、各学群の全教員が参加する会議を開催し、大学の方針について情報共有する場を設けている他、教育・研究に係る様々な問題等について検討を行い、全学的視点で取り組んでいます。

■ 生涯学習事業

地域貢献センターにおいて、大学の持つ教育研究機能を拡充し、地域社会のニーズに応える継続学習に関する取組を行っています。市民の皆さんの学習意欲に応えるため、大学の知的資源を活用し、多様な生涯学習講座を開催するとともに、幅広い世代の方々が体系的に学習できる機会等も提供しています。

■ 国際交流事業

グローバル人材育成への取組の一環として、本学では学生海外派遣を推進しており、様々な海外留学・研修機会を提供しています。交換留学先は、21の国と地域にわたり45大学あります。

令和6年度には、新たにアベリストウィス大学、グラスゴー・カレドニアン大学、ケッジビジネススクール、キャンベラ大学と交換留学を開始しました。

交換留学以外の長期プログラムでは、学生に人気のある米国・英国を主な派遣先とするセメスター留学プログラムなどがあり、留学の成果については、交換留学同様、要件を満たせば所属の学部・研究科で単位として認定しています。

短期プログラムとしては、令和2年度より、2年生の前期後半（第2クォーター）の時期に海外渡航をする第2クォータープログラムを設けました。

これまで提供していた夏季短期プログラムと併せて、英語語学とビジネスの専門科目を学べるカスタマイズプログラムなど、多種多様なプログラムを充実させています。

令和3年度秋から長期プログラムを、令和4年度夏から短期プログラムを再開しました。大学全体の派遣数はコロナ禍以前の水準を上回る規模となっています。

■ 産学連携の推進

平成31年度より、研究者の研究活動や産学官連携活動を支援する目的で「研究・産学連携推進センター」を設置し、令和4年には拠点事業推進部門を整備するなど、更なる研究活動の推進のため、必要な機能強化を図っています。

各種展示会やホームページ等を通じて、教員の多様な研究シーズを積極的に発信しているほか、国内外の研究機関や大学、企業等との共同研究、包括協定の締結による人材交流に取り組んでいます。

研究成果については、知的財産として権利化を図るとともに、早期の事業化・製品化に向けて、企業等へ技術移転を進めるなど、市民生活の向上や経済の活性化、産業振興に貢献しています。また、令和6年4月には産学連携研究のさらなる発展と社会実装、外部資金の確保に向けた中心的な役割を担う新しい産学官連携、オープンイノベーションを推進する組織として共創イノベーションセンターを設置しました。

■ インターンシップ・キャリア教育プログラム

学生が自身の専攻や将来のキャリアと関連した就業体験等を一定期間行う制度です。本学では、インターンシ

ップ（企業等が学生に対して提供する就業体験）とキャリア教育プログラム（官公庁や民間企業、国際機関等において学生の仕事理解･キャリア観の醸成を目的に実施）があり、定められた要件を満たしたプログラムについては、単位認定を行っています。

令和６年度は、市内企業をはじめ、中央官庁や地方自治体等に 75 名の学生が参加しました。海外プログラムは夏季にオーストラリアで実施されたインターンシップに１名が参加しました。

■ アカデミックコンソーシアム事業

アカデミックコンソーシアム（都市の課題解決を目的とした大学間ネットワーク、横浜市立大学が事務局）では、アジアトップレベルの大学が参加し、横浜市、国際的機関等と連携し活動を展開しています。

令和６年度は３巡目となるフィリピン大学が主催校となり、第 15 回国際シンポジウム及び総会が開催されました。アジア５大学の教員や専門家によるパネルディスカッションや大学混成チームによる国際学生フォーラム、またメンバー大学の研究者及び国際学生フォーラムの参加学生よる、一般公開の発表会が行われました。令和７年度には、第 16 回大会をハサヌディン大学（インドネシア）にて開催予定です。

■ 附属病院

附属病院

所在地　金沢区福浦３－９
（金沢シーサイドライン「市大医学部」駅下車徒歩１分）
TEL　045-787-2800（代）、FAX　045-787-2931
ホームページアドレス
https://www.yokohama-cu.ac.jp/fukuhp/

附属病院は、平成３年７月に横浜市南区浦舟町（現：市民総合医療センター）から移転し、新たに金沢区福浦に医学部附属病院として開院しました。横浜市内で唯一の特定機能病院として､『市民が心から頼れる大学病院』を目指し、医療、教育、研究、人材育成、イノベーションを通じて、私たちと私たちが関わる全ての人々の幸せに貢献すること」を理念に掲げ、先進的な高度医療を含め、安心･安全な医療を市民の皆さんに提供しています。

「地域がん診療連携拠点病院」「がんゲノム医療拠点病院」（厚生労働省）、「エイズ治療中核拠点病院」「災害拠点病院」「肝疾患診療連携拠点病院」「難病医療連携拠点病院」（神奈川県）、「赤ちゃんにやさしい病院」（WHO、ユニセフ）、「小児がん連携病院」「乳がん連携病院」「認知症疾患医療センター」（横浜市）等の承認を受けています。また、神奈川県唯一の公的医育機関附属病院として、医学生、看護学生など将来の優秀な医療の担い手の教育・育成にも努めています。

さらに、附属２病院の治験・臨床研究を推進する「次世代臨床研究センター（Ｙ－ＮＥＸＴ）」において、先進的医療研究や、がん研究への支援などを通じて、病気に苦しむ患者さんに「次の一手」となる治療法等の開発を推進しています。

附属病院

（診療科）

血液・リウマチ・感染症内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓・高血圧内科、内分泌・糖尿病内科、脳神経内科、脳卒中科、消化器内科、臨床腫瘍科、総合診療科、精神科、児童精神科、小児科、心臓血管外科・小児循環器、消化器・一般外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺･甲状腺外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線治療科、放射線診断科、核医学診療科、歯科・口腔外科・矯正歯科、麻酔科、脳神経外科、形成外科、リハビリテーション科、病理診断科、救急科、がんゲノム診断科、遺伝子診療科、難病ゲノム診断科、緩和医療科（39 診療科）

（病床数） 671 床（ただし､臨床試験専用病床 20 床を含む。）

附属市民総合医療センター（通称 市大センター病院）

所在地　南区浦舟町４－57
（市営地下鉄「阪東橋」駅下車徒歩５分、
京浜急行「黄金町」駅下車徒歩 10 分）
TEL　045-261-5656（代）、FAX　045-231-1846
ホームページアドレス
https://www.yokohama-cu.ac.jp/urahp/

附属市民総合医療センター（通称　市大センター病院）は、明治初期から市民の皆さんに親しまれてきた「十全病院」をその前身とし、旧附属浦舟病院を再整備した平成 12 年に名称を新たに開院しました。「市民の皆様に信頼され ”地域医療最後の砦” となる病院の創造」を目指し、日々医療を提供しています。

市民医療に徹した地域医療の基幹病院として、第３次救急医療や高度・専門医療等を 10 の疾患別センターと 25 の専門診療科が一体となり、市民の皆さんが必要とする医療を総合的に提供する大学病院として機能しています。

平成 15 年には「高度救命救急センター」（厚生労働省、神奈川県）や「赤ちゃんにやさしい病院」（WHO、ユニセフ）、平成 19 年には「総合周産期母子医療センター」（神奈川県）や「地域医療支援病院」（神奈川県）、平成 26 年には「地域がん診療連携拠点病院」（厚生労働省）、令和２年には「がんゲノム医療連携病院」の認定（厚生労働省）等を受けました。加えて、病院機能評価（一般病院３）についても持続的に認定を受けています。また、将来の優秀な医療の担い手の教育・育成にも努めています。

（10 疾患別センター）

高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター、リウマチ膠原病センター、炎症性腸疾患（IBD）センター、精神医療センター、心臓血管センター、消化器病センター、呼吸器病センター、小児総合医療センター、生殖医療センター

（25 専門診療科）

総合診療科、血液内科、腎臓・高血圧内科、内分泌・糖尿病内科、脳神経内科、乳腺・甲状腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器・腎移植科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線治療科、放射線診断科、歯科・口腔外科・矯正歯科、麻酔科、ペインクリニック内科、脳神経外科、リハビリテーション科、形成外科、緩和ケア内科、臨床検査科、病理診断科、遺伝子診療科、がんゲノム診療科

（病床数） 655 床

附属市民総合医療センター（通称　市大センター病院）